

100%手づくりのお世話®

大阪医科薬科大学 仁泉会 ニュース

仁泉会ニュース 第56巻第2号

発行所

〒569-8686 高槻市大学町 2-7

電話 FAX

072-682-6166 072-682-6636

発行者 発行部数

安藤嗣彦 6,300部

URL

http://www.jinsenai.net



Marriage Road® 結婚

Em Roadはここが違います

1 成婚率の高さ

2 質の高い会員層

3 自社会員のみ構成

資料請求・お申し込み・お問い合わせ

(株)Em Road

0120-4122-46 10:00~18:00 水曜定休

資料請求 無料

●スタンダードコース
●ドクターズコース

大阪本社
事務局

〒530-0043 大阪市北区天満3-2-2 エムロードビル3F

神戸 京都 東京

https://www.m-road.co.jp/



花の便りが

聞かれる頃となりました。



目次

P3 令和7年度 定期評議員会・総会開催のご案内

学会報告

- P4 第15回 日本皮膚科心身医学会を開催しました！ 森脇真一 (学35期)
- P6 第28回 日本神経感染症学会 総会学術大会を終えて 中嶋秀人 (学37期)
- P8 学会助成報告 第38回 日本小児脂質研究会 瀧谷公隆 (学38期)

支部だより

- P10 令和6年度 仁泉会大阪府支部連合会 学術講演会 開催報告
- P12 仁泉会城東支部懇親会開催報告 福田吉彦 (学29期)
- P13 東大阪支部総会報告 大西洋一郎 (学25期)
- P14 令和7年度 仁泉会神戸支部新年会報告 藤田能久 (学47期)

クラス会だより

- P16 大阪医科大学41会(昭和41年卒業 学15期)の 同窓会報告 勘田絃一 (学15期)
- P17 平成19年卒業 学56期生 卒業後初めての同窓会の報告 今井義朗 (学56期)

仁泉ひろば

- P18 ムベ(郁子) 佐々木進次郎 (学8期)
- P19 一寸法師の出身地 岡野 准 (学21期)
- P20 嶺北・嶺南の事
- P21 医療DXの落とし穴 久保田泰弘 (学36期)
- P22 スモンの集いを開催しました 中嶋秀人 (学37期)
- スモンを知っていますか？-

寄稿

- P24 下咽頭がんで声を失ったりハ医が、 太田利夫 (学31期)
- がんと共存していくと思えるまで
- ～生きていくには社会参加が必要だ！～
- P26 冊子切抜「濱脇弘暉先生を偲んで」 梅原 惇先生
- P27 冊子切抜 茂松茂人先生 (学27期)
- P28 会員著書 三木義仁 (学50期)
- P29 新聞切抜 近森正幸先生 (学21期)
- P30 新聞切抜 田村 功先生 (学31期)
- P31 新聞切抜 佐々木恵雲先生 (学35期)
- P32 まんが第72回 六本太ヒルズ (学31期)

本部だより

- P33 会員計報
- P34 編集後記
- P38 大阪医科薬科大学女性医師の会 第4回総会のご案内

令和7年度 定期評議員会・総会開催のご案内

令和7年度の定期評議員会及び総会をANAクラウンプラザホテル神戸にて開催いたします。
次号(令和7年5月)に出欠はがき(委任状)を同封いたしますのでご返送をよろしくお願い申し上げます。
評議員・支部長の先生方には別途評議員会のご案内をお送りいたします。

大阪医科薬科大学仁泉会理事長 安藤嗣彦

日時：令和7年5月25日(日)
午後2時30分…評議員会
午後3時………総会
(総会終了後懇親会)
場所：ANAクラウンプラザホテル神戸9階
「ローズマリー」の間

【お問合せ先】
大阪医科薬科大学仁泉会事務局
TEL:072-682-6166 FAX:072-682-6636
E-mail:info@jinsenkai.net

告示

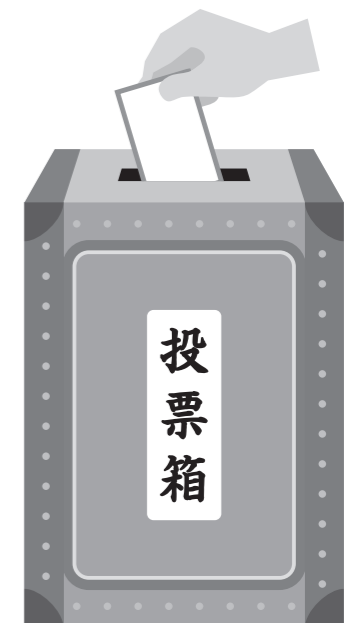
役員改選について

令和7年5月25日(日)開催の定期総会において、任期満了に伴う役員改選を行います。

役員候補者になろうとする者、または役員候補者を推薦しようとする者は、4月25日(金)までに文書をもって仁泉会事務局までお届け下さい。

用紙につきましては、仁泉会ホームページの「申請書ダウンロード」から入手いただくか仁泉会事務局までお申し出下さい。

令和7年3月1日
大阪医科薬科大学仁泉会
理事長 安藤嗣彦



学会報告

第15回 日本皮膚科心身医学会を開催しました！

文責／大阪医科薬科大学皮膚科
教授 森脇真一（学35期）

2025年（令和7年）1月26日（日曜）、本学医学部講堂において第15回 日本皮膚科心身医学会を当科で主催させていただきました。この学会は皮膚科心身医学に関わる幅広い専門領域の皮膚科医が集い情報交換

をする場として創設された会です。大会テーマは「Beyond Borders～皮膚科心身医学の裾野をひろげる～」といたしました。近年、アトピー性皮膚炎、円形脱毛症など多くの皮膚科疾患において、悪化因子としての精神的ストレスの関与、治療の際の心身医学的アプローチの立ち位置が注目され、診療ガイドラインにも記載されるようになり、傾聴、コーチングスキル、SDMなどが皮膚科実臨床の場でも重要視されてきています。「Beyond Borders」には皮膚科心身医学の重要性を知らない特に若手の皮膚科医へも裾野を広げること、皮膚科という垣根を取り除いて、皮膚科以外の先生へも皮膚科心身医学の存在を知っていただくこと、さらには臨床心理士、看護師など医師以外のスタッフとの交流も大事ではないかという思いを込めています。

本大会には寒い中招待を含めて総計102名のご参加をいただきました。特別講演では私が医学生時代から親しくさせていただいてきた同期である佐々木恵雲先生（学35）に、人生のエンディングでの究極の心身医学ともいえる「死生観」について素晴らしいお話をいただきました。佐々木先生は現在藍野大学学長という立場の教育者であり、藍野病院では内科としての診療もされ、またご実家である浄土真宗本願寺派西照寺の住職でもあります。教育講演2では、心理学がご専門で、本学において長年医学生のメンタルヘルスケアを展開されておられます澤村律子先生（大阪医科薬科大学保健管理室）に、近年増えてきている医学生のメンタルブレイクへの取り組み、対応をご紹介いただき活発な質疑応答が展開されました。学生時代に基礎医学を学んだ学一、学二講堂ですが、あの時から40年、この講堂で学会を主催できたことには感慨深いものがあります。

運営面では大阪医科薬科大学仁泉会をはじめとする団体からの寄付もあり何とか黒字の収支でした。大会自体は1日という短くてタイトなスケジュールでしたが、内容的にもご参加の皆様にご満足いただけたのではないかと考えております。

MENU		プログラム	
HOME	▶	8:50~	開会の辞
会長挨拶	▶	9:00~10:00	バーチャルケーススタディー <small>座長： 堀 仁子（市立徳島大学皮膚科） 司会： 徳島（徳島大学）皮膚科医局センター皮膚科/徳島大学皮膚科</small>
プログラム	▶		インフォrmアセントによるアトピー性皮膚炎患者の適切な下着に対する受け入れ上の実践 <small>座長： 上田真一郎（大阪医科薬科大学皮膚科） 司会： 上田真一郎（大阪医科薬科大学皮膚科）</small>
一般演題募集	▶		皮膚科心身医学における自律神経系の実践～バーチャルケーススタディーを通じて裾野を広げる～ <small>座長： 山本 浩志（徳島医科大学皮膚科）</small>
参加者の皆様へ 座長・演者の皆様へ	▶		10:10~11:00 フランチャイズ <small>座長： 多田 幸平（市立大学皮膚科） 司会： 堀 仁子（市立徳島大学皮膚科） 司会： 堀 仁子（市立徳島大学皮膚科）</small>
会場のご案内	▶		11:10~11:50 教育講演1 <small>座長： 堀 仁子（市立徳島大学皮膚科） 司会： 堀 仁子（市立徳島大学皮膚科）</small>
			12:00~12:50 ランチセミナー <small>座長： 堀 仁子（市立徳島大学皮膚科） 司会： 堀 仁子（市立徳島大学皮膚科）</small>
			13:00~13:45 特別講演 <small>座長： 堀 仁子（市立徳島大学皮膚科） 司会： 堀 仁子（市立徳島大学皮膚科）</small>
			13:55~14:45 スイーツセミナー1 <small>座長： 堀 仁子（市立徳島大学皮膚科） 司会： 堀 仁子（市立徳島大学皮膚科）</small>
			14:55~15:35 教育講演2 <small>座長： 堀 仁子（市立徳島大学皮膚科） 司会： 堀 仁子（市立徳島大学皮膚科）</small>
			15:40~16:10 一般演題 <small>座長： 堀 仁子（市立徳島大学皮膚科） 司会： 堀 仁子（市立徳島大学皮膚科）</small>
			16:15~17:05 スイーツセミナー2 <small>座長： 堀 仁子（市立徳島大学皮膚科） 司会： 堀 仁子（市立徳島大学皮膚科）</small>
			17:05~ 次期総会挨拶 <small>座長： 堀 仁子（市立徳島大学皮膚科）</small>
			17:15~ 閉会の辞 <small>座長： 堀 仁子（市立徳島大学皮膚科）</small>

大会プログラム

第15回 日本皮膚科心身医学会

MENU	
HOME	▶
会長挨拶	▶
プログラム	▶
一般演題募集	▶
参加者の皆様へ 座長・演者の皆様へ	▶
会場のご案内	▶

Beyond Borders

～皮膚科心身医学の裾野をひろげる～

会 期 2025年1月26日（日曜日）
会 場 大阪医科薬科大学医学部
会 長 森脇真一（大阪医科薬科大学医学部皮膚科学）

この度、盛会裡に第15回日本皮膚科心身医学会を終える事ができました。多くの先生方のご参加に深く御礼申し上げます。

新着情報

- 2024年11月14日 参加者の皆様へ座長・演者の皆様へ ページを公開しました。
- 2024年10月28日 会長挨拶ページ、プログラムページを更新しました。
- 2024年9月26日 プログラムページを公開しました。
- 2024年8月8日 一般演題募集ページを公開しました。
- 2024年5月15日 ホームページサーバーメンテナンスのご案内



医局スタッフ（大会終了後）

学会報告 ● ● ●

第28回 日本神経感染症学会 総会学術大会を終えて

文責／第28回日本神経感染症学会総会・学術大会長
日本大学医学部内科学系神経内科学分野教授
中嶋秀人（学 37 期）

この度、2024年10月11日（金）、12日（土）に第28回日本神経感染症学会総会・学術大会を歴史ある一橋大学一橋講堂（東京都千代田区）にて盛大に開催させていただきました。開催にあたり大阪医科薬科大学仁泉会より多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。おかげさまで、過去最多となる参加者をお迎えし、現地開催を大成功のうちに終えることができましたことを、ここに謹んでご報告申し上げます。

日本神経感染症学会は、神経感染症学の発展と社会への貢献という崇高な使命のもと設立され、その歩み

は神経感染症の克服という大きな目標に向かって着実に進んでまいりました。脳神経内科、小児科、救急診療科など第一線で活躍する臨床専門家たち、そして細菌学、ウイルス学、免疫学、神経科学などの最先端の知見を持つ基礎医学研究者たちが、緊密な連携体制を築き上げ、神経感染症の診療・研究の新たな地平を切り開いてきました。毎年の学術大会は、全国の名だたる研究機関から神経感染症の臨床と基礎研究に携わるトップレベルの研究者・臨床医・医療スタッフが一堂に会し、神経疾患の病態解明や革新的治療法開発を目指して、最新の研究成果を発表し合う、まさに知の交流の場として確固たる地位を築いてまいりました。

今大会のテーマは『神経感染症・自己免疫性脳炎の克服に向けて Diagnosis, Treatment, and Beyond』と銘打ち、未来を見据えた野心的な取り組みを展開いたしました（図1）。近年、脳炎・髄膜炎の病因は従来の感染症の枠を超え、自己免疫性脳炎や感染後の自己免疫病態へと視野を広げ、その病態解明に向けた研究は目覚ましい進展を遂げています。本大会では、第一人者による特別講演3題「感染症診療の原則」（図2）「神経感染症画像診断 Update」「感染症と免疫」を目玉に、10件の充実したシンポジウム、そして実践的な教育講演「1日でわかる神経感染症の診療のコツ」を企画。第一線の研究者たちによる白熱した議論と、最新の知見の共有が実現しました。特筆すべきは、私の教室が国内における中心的役割を担い情報発信を続けている自己免疫性脳炎（図3）、進行性多巣性白質脳症、バ

イオ製剤の感染症リスク、水痘帯状疱疹ウイルス感染症など、臨床現場で直面する重要課題について、第一人者による詳細な解説と討論が展開されたことです。さらに、若手医師を応援する会主催の症例検討会では、次世代を担う若手医師たちが、複雑な症例に果敢に挑戦する姿が印象的でした。一般演題では、全国の新進気鋭の研究者や臨床医による革新的な研究成果や貴重な症例報告が相次ぎ、まさに若手研究者の登竜門として、かつてない盛り上がりを見せました（図4）。

2024年4月より日本神経感染症学会の第7代理事長

を拝命した私は、この成功を新たな出発点として、神経感染症・自己免疫性脳炎の完全なる克服に向けて、さらなる高みを目指してまいります。学会の発展、若手研究者の育成、そして世界に誇る研究成果の創出に向けて、全力で取り組む所存です（図5）。一人でも多くの優秀な医師や研究者に本学会の門戸をたたいていただき、共に歩んでいただけることを切に願っております。今後とも日本神経感染症学会の飛躍的な発展のため、皆様の温かいご指導とご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。



図1：学術集会ポスター



図2：特別講演演者の青木眞先生と筆者



図3：「自己免疫性脳炎の病態と治療」シンポジストと筆者

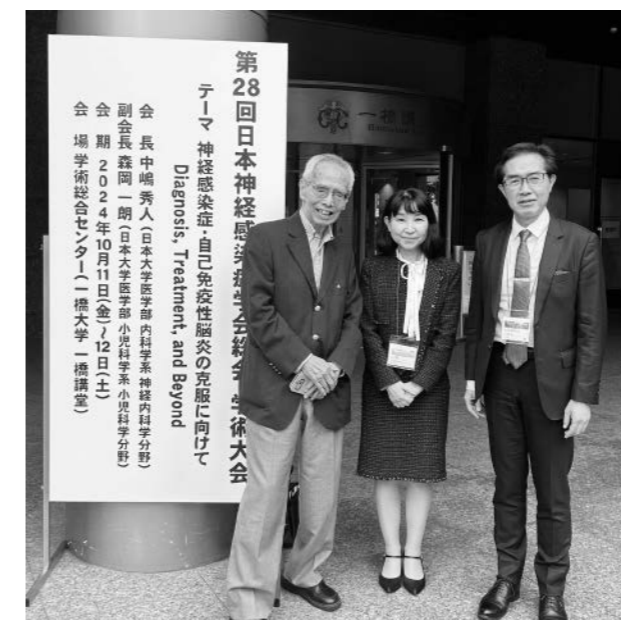


図4：学会創立者の庄司紘史先生と筆者



図5：学会ホームページ

学会報告

学会助成報告

第38回 日本小児脂質研究会

文責／大阪医科薬科大学
医学教育センター・小児科 専門教授
瀧谷公隆（学 38 期）

2024年10月26日（土）・27日（日）に大阪医科薬科大学本部キャンパス（新講義実習棟）で、第38回日本小児脂質研究会を開催いたしました。大阪での開催は、第17回（2003年・玉井浩会長：本学小児科学教室教授）および第36回（2022年・斯波真理子会長：本学病院循環器センター特務教授）を経て、3回目です。

本研究会は、先天代謝・内分泌・肥満・栄養・循環器・動脈硬化など多領域の小児科医、内科医、栄養士、基礎医学研究者などの多職種研究者・臨床家が小児の脂質代謝というキーワードのもとに参集しており、先

生方は日々研鑽を積み重ねております。今回は、「次世代に繋ぐ小児脂質臨床と研究」のテーマで、小児家族性高コレステロール血症のスクリーニングをテーマにシンポジウムを企画いたしました。

参加者は約60人で、一般演題は11演題でした。特別講演として、榎島誠教授（日本大学 医学部 生体機能医学系 生化学分野）に「オキシステロール受容体LXR と脂肪性肝疾患及び動脈硬化性疾患の病態との関連性」をご講演いただきました。教育講演として、恵谷ゆり先生に（大阪母子医療センター 消化器・内分泌科）「家族性高コレステロール血症の栄養療法と小児肥満の予防について」、原 光彦教授（和洋女子大学 家政学部 健康栄養学科）に「幼児肥満の現状と課題」をご講演いただきました。また、Meet the Expertのセッションでは、本学小児科循環器グループの小田中 豊先生に「青年期における RH-PAT を用いた微小血管内皮機能評価の意義と今後の展望」の演題で、ご講演いただきました。セミナーでは、山本幸代先生（産業医科大学 小児科）には「新薬登場による新たな可能性：小児家族性コレステロール血症ホモ接合体に対する治療 Update」、多田隼人先生（金沢大学附属病院 循環器内科）には「家族性高コレステロール血症に対する遺伝学的検査と治療戦略 2024」をご講演いただきました。

今回のトピックスとして、FH（家族性高コレステロール血症）を早期発見・治療に結びつけるスクリーニングを取り上げました。そこで、難治性家族性高コレステロール血症患者会代表の寺田栄志様に「家族性高コレステロール血症の患者が願う、子どもたちの診断と治療」をお話いただき、我々は非常に感銘を受けました。FHスクリーニングシンポジウム：「本邦における FH スクリーニング：実践と展望」では、斯波真理子特務教授（本学病院）に概論を、松永圭司先生（香川大学 抗加齢血管内科）、岩島覚先生（中東遠総合医療センター 小児科）にそれぞれの地域の取り組みをお話いただきました。さらに、本研究会では、初めて、菊池透運営委員長がFHスクリーニングを勧奨する宣言「高槻宣言 2024」を発出しました。今後、FHの早期発見・治療のシステムが構築されることを望みます。

今年度より、学術総会において発表される若手発表者の演題の中から、「若手優秀演題賞」を選出しました。合計4演題の応募があり、いずれも甲乙つけがたい発表でありましたが、香川大学小児科の西岡克文先生が、

「小児FHヘテロ接合体の遺伝子バリエーションと薬物治療反応性の検討」のご発表で受賞されました。

非常に天候も良く、全国各地から先生方が参加され、小児脂質研究に関する意見交換が活発に行われ、盛会裏に無事終了いたしました。また、1日目の夕刻に、本学職員食堂でも活発な意見交換が行われました。最

後に本研究会の立案・運営にご協力いただいた斯波真理子先生、小児内分泌グループ（高谷竜三先生・黒柳裕一先生・宮河祐治先生）および秘書様に感謝いたします。最後になりましたが、多大なご助力をいただきました一般社団法人大阪医科薬科大学仁泉会にこの場を借りまして、深く御礼申し上げます。

「高槻宣言 2024」

Check Child Cholesterol, Save FH

こどものコレステロールをチェックして、FHを救おう！

- ① 家族性高コレステロール血症（FH）は、300人に1人と、頻度の高い疾患です。
- ② 未治療のFHでは、20-30歳代に心血管疾患を起こすこともあります。
- ③ 小児期に発見し、治療すれば、予後を著しく改善することができます。
- ④ 小児期にLDLコレステロールが高値の人は、成人期も高値のことが多いです。
- ⑤ 小児でも採血の機会には、総コレステロール（TC）を測定しましょう。（FH オポチュニスティック・スクリーニング）
- ⑥ 小児生活習慣病予防健診等で、健常小児全員を対象に、総コレステロール（TC）あるいはLDLコレステロール（LDL-C）を測定しましょう。（FH ユニバーサル・スクリーニング）
- ⑦ TC 220mg/dL 以上では、LDL-C を評価しましょう。
- ⑧ LDL-C 140mg/dL 以上では、FHを疑いましょう。
- ⑨ LDL-C 180mg/dL 以上では、FHの可能性が高いです。TC 260mg/dL はおよそLDL-C 180mg/dL に相当します。
- ⑩ 両親のLDL-Cも確認しましょう。（リバース・カスケード・スクリーニング）

日本小児脂質研究会では、多くの方に「高槻宣言 2024」を認知していただき、

- ① 小児科医の家族性高コレステロール血症（FH）への認知度の向上
- ② 小児期からFHスクリーニングの推進、診断率の向上
- ③ FHの小児および家族への治療・介入の推進、動脈硬化性疾患の発症の予防を邁進します。

<https://square.umin.ac.jp/~jslpc/index.html>

第38回 日本小児脂質研究会

～次世代に繋ぐ小児脂質の臨床と研究～

会期：2024年10月26日(土) -27日(日)

場所：大阪医科薬科大学 本部キャンパス 新講義実習棟 1F (P101)
(大阪府高槻市大学町2-7)

会長：瀧谷 公隆（大阪医科薬科大学 医学教育センター・小児科 専門教授）
副会長：高谷 竜三（大阪府済生会茨木病院 小児科部長）

学会HP：<https://cs-oto3.com/38jica/>

特別講演：「オキシステロール応答性核内受容体LXRによる免疫・代謝調節」（仮題）

榎島 誠（日本大学 医学部 生体機能医学系生化学分野 教授）

教育講演：「幼児肥満の現状と課題」（仮題）

原 光彦（和洋女子大学 家政学部 健康栄養学科 教授）

教育講演：「脂質代謝を考慮しながら行う栄養療法」（仮題）

恵谷ゆり（大阪母子医療センター 消化器・内分泌科 主任部長）

シンポジウム：「本邦におけるFHスクリーニングの現状」

斯波真理子（大阪医科薬科大学病院 循環器センター 特務教授）

岩島 覚（中東遠総合医療センター 小児科 副院長）

松永圭司（香川大学医学部附属病院 抗加齢血管内科 学内講師）

社会講演：「難治性家族性高コレステロール血症患者会について」（仮題）

寺田栄志（難治性家族性高コレステロール血症患者会）

若手優秀演題賞

口頭発表される若手発表者の演題の中から、「若手優秀演題賞」を選出いたします。多数のご応募をお待ちしております。詳細はHPをご参照ください。

*26日(土)終了後には意見交換会(大学構内)を予定しております。

事務局：〒569-8686 大阪医科薬科大学 小児科学教室内 第38回 日本小児脂質研究会 運営事務局
担当：瀧谷公隆（たきたに きみたか）
TEL: 072-683-1221（代表）
E-mail: 38jica@jica-osaka.jp

支部だより ●●●

令和6年度 仁泉会大阪府支部連合会 学術講演会 開催報告

令和6年11月9日(土)、ホテルグランヴィア大阪20階「名庭の間」にて、令和6年度 仁泉会大阪府支部連合会 学術講演会が開催されました。昨年に引き続き、完全対面形式での開催となり、52名の先生方にご参加いただきました。



霜野良一 会長

会に先立ち、興和株式会社より情報提供が行われた後、会長の霜野良一先生(学28期)のご挨拶をいただき大阪府連の活動の取り組みについてお話をいただきました。



安藤嗣彦 理事長

続いて来賓として仁泉会理事長の安藤嗣彦先生(学20期)より母校の近況や仁泉会の現状についてお話を賜りました。その後、森川浩志先生(学36期)の座長進行のもと、講演会が開催されました。

講演1 「抗認知症薬について」

講師：森本一成先生
(新阿武山病院 副診療部長 学45期)

今回は2講演で行い、まず森本一成先生より、近年の抗認知症薬の最新動向についてご講演をいただきました。認知症治療の基本概念、現在使用されているコリンエステラーゼ阻害薬(ドネペジル、リバスチグミン、ガランタミン)やNMDA受容体拮抗



森本一成 先生

薬(メマンチン)の作用と効果について詳しく解説されました。さらに、患者の病期に応じた適切な薬剤選択や、副作用管理のポイントについても具体的な症例を交えながら説明され、参加者からは活発な質問が寄せられました。

講演2 「うつ、不安・不眠のみかた ~ベンゾが使いにくい時代の治療方策~」

講師：金沢徹文先生
(大阪医科薬科大学 神経精神医学教室 主任教授 学49期)

金沢先生からは、近年の精神医療のトピックであるベンゾジアゼピン系薬剤の適正使用を中心にご講演をいただきました。



金沢徹文 先生

ベンゾジアゼピン系薬剤はその即効性と有効性から広く使用されてきましたが、高齢者への影響や依存の問題などから、現在では慎重な処方求められる時代となっています。そのため、SSRI・SNRI・NaSSAなどの抗うつ薬、抗精神病薬の低用量使用や活用について、最新の知見を交えて解説されました。

また、患者背景に応じた治療アプローチの重要性についても言及され、臨床現場に即した実践的な内容となりました。



ご講演後、興和株式会社より謝辞が述べられ、副会長の大西洋一郎先生(学25期)の閉会の辞にて、学術講演会は盛会のうちに終了しました。

その後、隣室にて情報交換会が行われ、参加者同士が積極的に意見を交わし、久しぶりの対面での交流を深める貴重な時間となりました。

令和7年度の学術講演会は、令和7年5月10日(土)にホテルグランヴィア大阪にて開催予定です。本会は、日々の診療に役立つ最新の医学情報を共有し、参加者同士の交流を深める貴重な場となっております。ぜひ今からご予定に加えていただき、来年度も多くの先生方にご参加いただきますようお願い申し上げます。

最後に、本講演会の開催にご尽力いただきました関係各位に深く感謝申し上げます、開催報告とさせていただきます。



令和7年度仁泉会大阪府支部連合会 支部長会及び春季学術講演会 開催のご案内

令和7年度の仁泉会大阪府支部連合会は支部長会及び春季学術講演会を下記にて開催いたします。各支部の支部長先生はじめ多数のご参加をお待ちしております。

記

日 時：令和7年5月10日(土) 午後4時から支部長会
午後5時から講演会
午後6時から懇親会
場 所：ホテルグランヴィア大阪 20階 「鳳凰A」の間

以上

支部だより●●

仁泉会城東支部懇親会開催報告

文責／福田吉彦（学29期）

令和6年11月16日（土）に仁泉会城東支部懇親会を開催しました。当支部は例年大阪市内で年に一度懇親会を開催していますが、今年は趣向を変えて日帰りです。少し遠くに行ってみようということで丹波篠山へ行くことになりました。

今回の参加者は高田 淳（学30：城東区医師会長）、野口誉生（学45：同理事）、小竹淳一郎（学54：同理事）と福田吉彦（学29：同副議長）の4名で例年に比較して出席者は少なかったです。

丹波篠山を選んだのは小竹が同地の病院に以前勤務していたため土地に詳しく、また皆の興味から昨年の総会懇親会で決定しました。当日はあいにくの雨模様で

したが仕事終了後集合し貸し切りタクシーで出発しました。約1時間30分程の道のりで到着しました。同地は風情豊かな城下町で、城址を見学し、酒蔵で試飲をしたりお土産を買ったりし、夕食は市街地からかなり外れていますが「丹波篠山 いわや」でいただきました。猪鍋が有名な店で不便な地であるにも関わらず人気店であり満席でした。みそ仕立ての猪鍋も生きたアマゴの塩焼きも美味で、またビール、日本酒、ワインも地元産で満足できました。帰りもタクシーで皆午後9時前に帰宅しました。和気あいあいと楽しく時を過ごしました。

当支部は引退閉院された先生方が退会され、入会してくださる方が少ないのが悩みの種です。



左から（敬称略）：福田吉彦／野口誉生／高田 淳／小竹淳一郎

支部だより●●

東大阪支部総会報告

文責／大西洋一郎（学25期）

1月1日に東福寺に行った。京都駅から、たまたま乗った市バスがそっち方面だった。東福寺は塔頭、伽藍ともに広大で鳥羽伏見の戦いの時、官軍の宿営地だったし石田三成が安国寺恵瓊らと関ヶ原の戦いの前に密議をした場所でもあり。安国寺恵瓊は秀吉の毛利攻めの時、清水宗治を切腹に導いた僧であり、歴史は色々織りなしている。重森三吟による正方形の市松模様の庭園や、秋の紅葉など季節を問わず見所につきない。

さて、13日の成人の日には安藤嗣彦仁泉会理事長をお迎えして総会を開いた。BNCT研究センターの運用が好調で、現在運用中である、住友重機工業が納入した加

速器の技術力が素晴らしいので、今後より一層の発展が期待できるというお話の後、総会が開かれた。出席者は佐藤公彦、恒川恵治、塩路清一、笠原幹司、大西敦子、長谷川昌史、大西洋一郎でした。いつものように会計報告を行い、多種多様な話題がいつ尽きることもなく話が続きまし。塩路先生の乾杯のご挨拶にて宴会が始まり、最後は恒川先生に締めていただきました。

出席者（敬称略）：

安藤嗣彦 仁泉会理事長	（学20期）
佐藤公彦	（学12期）
恒川恵治	（学17期）
塩路清一	（学20期）
笠原幹司	（学35期）
大西敦子	（学40期）
長谷川昌史	（学47期）
大西洋一郎	（学25期）



支部だより

令和7年度 仁泉会神戸支部 新年会報告

文責／藤田能久（学47期）

令和7年1月25日（土）、仁泉会神戸支部 新年会が開催されましたので、ご報告いたします。

フレンチレストラン イグレックバガを会場として、総勢31名の先生方が出席されました。

会長 増井裕嗣先生（学29期）による新年の挨拶の後、理事長 安藤嗣彦先生（学20期）より本部報告および神戸支部への賛助を賜り、乾杯のご発声を頂戴しました。



新年会にふさわしくスパークリングワインでの華やかな乾杯後、ワイングラスを手にフランス料理を楽しみながら、各テーブル歓談の華をさかせていました。

宴も中盤に差し掛かり、酔いもまわってきたところで、恒例のスピーチ大会となりました。

神戸市医師会会長 堀本仁士先生（学35期）も大変ご多忙な中、ご出席いただき、神戸市医師会の現状

報告を兼ねてご挨拶を頂きました。

引き続き、久しぶりのご参加となりました竹内陽史郎先生（学33期）より神戸支部ゴルフコンペへの意気込みを頂戴しました。初参加となりました、林 卓郎先生（学50期）、大塚俊宏先生（学56期）からもご挨拶を頂きました。神戸支部では比較的若い先生方となりますが、持ち前の明るさもあり、すぐに世代を超えての交流となり神戸支部サステナビリティを確信させる頼もしい会となりました。

最後に副会長 米田 豊先生（学30期）より阪神淡路大震災の苦い思い出も交えた当時の神戸支部新年会の貴重なお話を頂きました。

神戸支部高齢化問題？には抗えず、いつもの場所（2次会）への案内は告知されず、参加者全員での記念撮影後、新年会は幕を閉じました。

追伸

令和7年度 仁泉会定期総会のご案内です。

令和7年5月25日（日）ANAクラウンプラザホテル神戸にて開催となります。

本年度の総会は神戸支部が担当となります。会員の先生方、新規参加を迷っておられる先生方、親子参加など、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

なお、案内ハガキ新規郵送などに関しては、本部事務局（TEL 072-682-6166）までご一報願います。

- | | |
|-------------|-------------|
| 出席者（敬称略） | 郡山俊昭（学30期） |
| 福永 晶（学14期） | 米田 豊（学30期） |
| 谷尻 仁（学15期） | 高井 豊（学30期） |
| 日下孝明（学16期） | 井尻慎一郎（学31期） |
| 横山光昭（学19期） | 岡本恭行（学32期） |
| 安藤嗣彦（学20期） | 水谷 肇（学32期） |
| 岩越一彦（学22期） | 竹内陽史郎（学33期） |
| 石原一秀（学23期） | 堀本仁士（学35期） |
| 寺師克洋（学23期） | 中本博士（学39期） |
| 中林愛晶（学27期） | 松本逸平（学42期） |
| 植坂俊郎（学27期） | 長濱通子（学42期） |
| 小高正裕（学28期） | 藤田能久（学47期） |
| 浪方典宏（学29期） | 林 卓郎（学50期） |
| 森松伸一（学29期） | 大塚俊宏（学56期） |
| 増井裕嗣（学29期） | 浪方 悠（学65期） |
| 中林まゆみ（学29期） | 天野公博（本部事務局） |



出席者の石原一秀先生(学23期)が令和7年2月2日にご逝去されました。ご逝去を悼み、心よりご冥福をお祈り申し上げます。



支部会・クラス会開催にあたって

支部会・クラス会開催にあたり、ご案内発送や出欠の集計等を仁泉会事務局にてお手伝いさせていただきます。お気軽にご相談ください。

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636
e-mail / jimuj@jinsenkai.net

クラス会だより

大阪医科大学41会 (昭和41年卒業 学15期) の 同窓会報告

文責／勘田紘一 (学15期)

令和6年10月26日(土) ホテルグランヴィア京都にて5年振りの同窓会を開きました。例のコロナ禍で開催を危ぶまれていましたが「元気で集まれる者だけでも…」との声にはげまされて会を持ちました。

私達の会は物故者も34名に達し、腰痛や体調不良のため欠席者が続出し、参加も10名になってしまいました。でも、昔の学生時代に帰ったかの様で楽しい時を過ごしました。

これを機に同窓会も泊り掛けにして行うことも可能と考えます。

今回は令和7年11月22日(土)～23日(日) 西宮市の肉料理タケゾノで同期の藤堂君の幹事で開催を行う予定にしています。出来るだけ多くの参加を期待しておりますのでよろしくお願い申し上げます。



参加者 (敬称略)
前列左より 川西/児玉/勘田
後列左より 菊田/藤堂/金子/梶山/谷尻/北浦/谷口

クラス会だより

平成19年卒業 学56期生 卒業後初めての同窓会の報告

文責／今井義朗 (学56期)

令和6年1月12日(日)、ホテルグランヴィア大阪にて、平成19年卒(学56期生)の同窓会が盛大に開催されました。我々の学年は、卒業以来同窓会が一度も開催されておらず、今回コロナ禍が明けたこのタイミングで初めて同窓会を実現することができました。企画してくださった大関道薫先生、太田和寛先生、吉田若菜先生、本当にありがとうございました。

東京や愛媛、香川、高知など遠方からも泊まりがけで参加いただき、総勢48名もの方々が集まってくれました。

午後1時、大関先生の発声による乾杯で会が幕を開けました。懐かしい学生時代の思い出話に花を咲かせたり、それぞれの近況を語り合ったりと、時間はあっという間に過ぎていきました。

卒業から18年の月日が流れ、それぞれ年齢を重ねま

したが、みんな学生時代の面影は残っており、顔を合わせると当時の記憶がすぐによみがえり、とても楽しいひとときを過ごすことができました。お酒も進み、会も終盤になったところで、何人かの方には近況報告をしてもらいました。また、学生時代から鍛え抜かれた体を、医者になってさらに磨き上げた姿を披露してくださった先生もあり、大いに盛り上がりました(笑)。

皆さんそれぞれが仕事や家庭などさまざまな立場で活躍する年代となりましたが、この日だけは学生時代に戻ったような気持ちで楽しい時間を共有することができました。同期の皆さんが元気で活躍している話を聞くことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

最後に、次回の開催(卒業20年目でしょうか?)を約束し、名残惜しい中ではありましたが会は無事に終了となりました。二次会は、グランフロントで開催され、そのまま三次会へと続いていき、長い長い1日となりました。

今回都合が合わず参加できなかった同期の皆様、次回ぜひご参加いただければと思います。

同期の皆さんの今後ますますのご活躍を祈念し、同窓会の報告とさせていただきます。

幹事：今井義朗、大関道薫、太田和寛、吉田若菜



参加者：(敬称略)

石上晃子	宇都宮 栄	尾崎(渡辺)由香	坂根和志	中野知哉	町田崇博
伊丹康夫	枝川 右	門田 卓	斯波秀行	中村(樋口)容子	松田 歩
今井義朗	大関道薫	金村(福居) 萌	重里 寛	則岡(松田)有佳	松岡(丸岡)理紗
岩崎信吾	太田(立花)亜賀沙	北原知洋	郷 貴光	坂東弘教	眞野(森山)侑子
岩永紘征	太田和寛	城戸晴規	筋師徹也	平本(新井)梨花	宮崎宏一
印藤直彦	岡田(藤原) 薫	木村誠吾	砂田真澄	福家良太	八木洋輔
上田航平	荻田庄吾	桑門(笹井)映子	関 寿之	文元(高山)文美	吉田(松村)若菜
上原(吉田)奈津美	奥平 尊	穀内康人	田中 亮	尾藤(吉井)三佳	吉川信彦

仁泉ひろば

jinsen-park

ムベ (郁子)

文責／佐々木進次郎 (学8期)

11月初旬、隠岐(私の故郷でもある)に帰省中の甥(松江市在住)から「実家の庭に自然に生えたムベの実(写真)が熟したので欲しければ送る」とのラインをもらった。甘い物に餓えて、アケビだムベだと里山を探し回っていた子どもの頃を思い出し、すぐ送るようにと返事した。2、3日して懐かしい姿形の15、6個のよく熟れたムベが届いた。

「ムベ」という変わった名前の由来については、以下のような伝説がある。

天智天皇が近江の蒲生野で狩りをしたとき、8人の子供を持つ長寿の老夫婦から、無病長寿の果物だと言ってアケビを小さくしたような果物をもたらした。それを口にした天皇が「むべなるかな(なるほど:もつともである)と宣ったのが始まりだと言う。以来、ムベはこの地区から朝廷への献上物になったらしい。もつとも、蒲生野を訪れたのは天智天皇ではなく、聖徳太子や天武天皇とする説もある。このほかに「大贄(おおにえ):朝廷への献上物」が訛って苞苴(おおむべ)となり、さらに変化して「むべ」になったとする説もある。

ところで、「むべ」と言う言葉からすぐ思い浮かぶのは百人一首に出てくる文屋康秀の歌「吹くからに秋の草木のしをるればむべ山風を嵐といふらむ」である。「山から風が吹くと秋の草木はしおれるので、なるほど、山に風と書いて嵐と読むのだな」と言う意味だが、いやに理屈っぽい歌だと言う人もあるようだ。それはともかく、私が子供の頃、田舎の正月の遊びと言えばカルタ取り(百人一首)であった。カルタ読みのカルタ知らずは「むべ山」と言う山から吹く風を嵐と言うのだとばかり思っていたものだ。

ついでながら、ウィキペディアには「島根県隠岐郡ではムベをフユビとも呼ぶ」とあるが、隠岐郡の中でも私の村ではムベ



でもフユビでもなく、「ウベ」と呼んでいる。ムベが訛ってユベに変化したのだらうと思っていたが、「むべなし」(思った通り、予想した通り)が「うべなし」の形で使われている場合も多く、「む」から「う」に変化することはまああるようだ。事実、『大辞泉』(小学館)には、「ゆべ」は「むべ」の別名としているので、私の村だけの方言とは言えないようだ。

さて、ムベはなぜ「郁子」と表記されるようになったのだろうか?最も違和感のないのは「エビヅル(郁)の実(子)だから」とする説だが、ムベ(アケビ科)とエビヅル(ブドウ科)を混同しているようなところが気になる。ほかに「郁子=アケビ科だから」と言うそっけない説、「よい匂い(郁)のする実(子)だから」と言う郁子名の女性が喜びそうな説もある。

古来、ムベ(郁子)に因んだ和歌・短歌は予想外に少ないようだが、北原白秋の歌集『白南風』にはムベまつわる4首が載っている。その中に「こもごもにむべ(郁子)とあけび(通草)をとり食みて郁子がよしちふこの子があわれ」がある。私もこの子のように、アケビよりも匂いも味も上品なムベのほうが好きだ。また、ムベはアケビのように皮が開くことはなく、野鳥につつかれた跡がないのも好ましい。

しかし、甥が折角送ってくれたムベは、残念ながら、かつてのような匂やかさや風雅な味わいがあまりないように感じられた。加齢のために私の嗅覚・味覚が退化してしまったのか、それとも育つ場所を間違えたムベのせいだろうか。

そう言えば、家内の母親の名前は「郁子」であった。家内が「ムベを食べるのは初めてだ」と言いながら3個も食べたのは、むべなるかな、亡母を忍んでのことだったのかも知れない。

仁泉ひろば

jinsen-park

一寸法師の出身地

文責／岡野 准 (学21期)

昔話に語られている一寸法師は、一寸にも満たない小柄なおの腕の舟に箸の櫂を使い縫い針の太刀を携えて京に向かった事になっています。そんなに小さかったら自力で舟をコントロールするのが困難でしょうから、上流から下流に向かったのだと思っていましたが、違っているようです。一寸法師の出身地は京都に流れ込む川の上流だと思っていたのですが、どうも違うそうです。

明治初期に一寸法師の童謡が作られて、一寸法師の話が有名になりましたが出身地は童謡に歌われていませんので、京都出身だと思われることが多いようです。

しかし出典の御伽草子によると違うようです。御伽草子にある一寸法師はかなり長い話で、昔話の絵本や童謡の内容の様にはしよった話ではありません。一寸法師は勇気ある少年というよりは知略にたけた(或いはずる賢い)人間に表現されています。

話を手短かに説明すると「昔、津の国(大阪)の老夫婦が住吉大社に小さい子供でも良いから子宝を御授け下さいとお願いしたところ、一寸の子供を授かった。幾つになっても大きくならないので、化け物かと怪しむ夫婦の心を察し、一寸法師は京都へ上って侍になりたいと申し出て、御腕の舟に箸の櫂で、住吉の浦から難波津を経て淀川を遡り京都に向かい、鳥羽の津で大きな屋敷を見つけそこで働かせてもらうが、その家の娘に一目ぼれしその娘の寝ている時に米粒を付けて泣き、娘にとっておいたお結びを食われた嘘をついたところ、親の大臣が怒り手癖の悪い娘は切り殺すというのをとりなして二人共々家を追い出された。二人は小舟に乗せられ流されたところ不気味な島に流れ着き、鬼が現れた。襲ってきたので一寸法師が守ろうとした所鬼につままれて飲み込まれた。飲み込まれた一寸法師は針の太刀で腹の中を指し鬼が吐き出しそうになり慌てて口をふさいだが、目から出てしまい、鬼は参ったと打出の小槌を差し出して逃げていった。打出の小づちで大きくなった一寸法師の話が帝の耳に届き、親と共に呼ばれて帝に話を聞かれ、一寸法師の両親は帝に由縁のある貴族で無実の罪で流罪になった者の遺児だと判り、六尺豊かの大男になった一寸法師を気に入り、娘と結婚した一寸法師は中納言

にまで出世した。」という長い話で。つまり一寸法師は住吉大社の神様が授けた大阪の子供だったそうです。ずる賢いのはまずいので、いろいろ話が作り替えられているようです。2004年大正から昭和初期の道頓堀をイメージして作ったという一寸法師大明神が道頓堀と法善寺横丁を結ぶ浮世小路に有ります。つまり、一寸法師は大阪の子だったそうです。どうせ作り話なので辻褄の合わない所はいろいろあるのに決まっていますが、大の男でも住吉あたりから京へ向かうのは、ろくに乗り物の無い時代には陸路でも大変だと思います。

小さな一寸法師が安定の悪い御腕の舟で川をさかのぼるのは、神の御加護でもない限り不可能だと思います。それこそ住吉さんのお力だったのでしょうか。



仁泉ひろば

jinsen-park

嶺北・嶺南の事

文責／岡野 准（学 21 期）

福井県の天気予報を聞いてみると、「嶺北地方では、嶺南地方では」と言っています。どこかに嶺と呼ばれる高い地域があってそこから南側・北側を分けている物と思われる。そこで福井県に高嶺な山・山脈が有るのかを調べてみますと、木の芽峠（木嶺とも言います）という峠と桁の木峠を結ぶ稜線を境として北東側（越前地方）を嶺北、南西側（若狭地方）を嶺南と言いつけているようです。

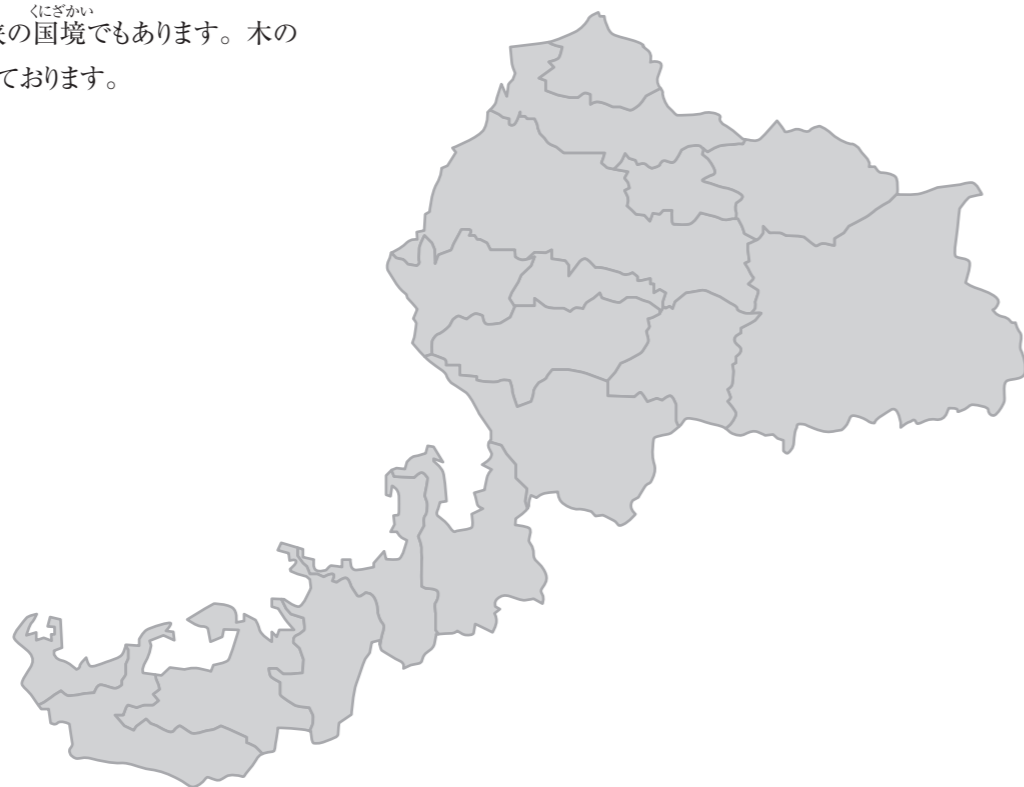
鉢伏山（標高1221m、兵庫県の鉢伏山とは違います）の稜線にある木の芽峠（標高628m）はそんなに高いわけでは有りませんが、高槻の最高峰ポンポン山（加茂瀬山678m）に近い標高で、越前と若狭を分けている峠は険しい道のりで冬には積雪と厳しい寒さで難所とされているそうです。この稜線を指している様で北側と南側とでは天候が変わることも有り、分けられている理由の様です。

福井県には標高1500m以上の山も多く、600m位の峠が難所とは驚きですが、日本海側は天気の変化も多く冬季には雪深いので難所なのでしょう。この稜線は分水嶺でもあり、昔の越前と若狭の国境でもあります。木の芽峠には次のような話が残っております。

『その昔、大金を持った旅人を乗せて木ノ芽峠を越えた馬子がありました。馬子がこの峠で旅人を殺して金を奪ったところ、地蔵の前であったことに気づき「地蔵言うな」と独り言を言いました。すると地蔵から「地蔵言わぬが己言うな」と言い返されました。その後、年を経て再びこの峠を越す時、馬子は歳若い旅人と道連れとなり四方山話をしながら歩いていると、あの地蔵の前にやって来ました。馬子はこの地蔵が靈験あたらかな地蔵であることを告げると、旅人はその云われを問いました。馬子は先年の悪事を語り、ありし次第を告げたそうです。しかし、実はこの旅人こそが先年殺された旅人の息子で、親の仇を訪ね歩いていた者だったのです。息子は天にも昇る心地をこらえ、山中で仇を討つよりはと、共に敦賀まで出てから名乗りをあげてこれを討ちとったとのことです。』

桁の木峠は滋賀県と福井県の県境にあり、標高が538m有り、鉢伏山の稜線にある木の芽峠に続く稜線上に有ります。

この稿はいつも親切だった今は亡き長年の釣友、小玉敏弘先生に捧げます。小玉先生、きっと明るい星になっている事でしょう。



仁泉ひろば

jinsen-park

医療DXの落とし穴

文責／久保田泰弘（学 36 期）

医療DXは、オンライン資格確認、マイナ保険証に始まり、電子処方箋、全国医療情報プラットフォームと着実に進んでおり、2025年から2030年にかけては、標準型電子カルテが、病院用、開業用として提供される予定です。

2024年の診療報酬改定においては、過去最大の煩雑な改定で、申請しないと貰えない点数が多く存在します。

今のところ、医療DXは、薬剤情報や、採血検査情報、3文書6情報を共有化することに留まっていますが、その先にあるのは、日本全国の国民の医用情報の電子カルテ情報の集約化であります。

2010年代にNDBデータを集約化され、そして今度は電子カルテの全データです。勿論、医療ビッグデータを集約化することは、様々な病気の傾向を分析するのに、サイエンスとしては意義があるとおもいます。

しかし、裏を返せば医師のSOAPを含めた医師の思考過程がすべて厚労省のもとに行くのです。よほど根拠を明確にしないと、検査した理由次第では査定される時代が来るかもしれません。

もともと、厚労省に国民の医療データをすべて管理してもらうのがいいことなのでしょうか？

本来は、日本医師会が、国民の医療情報をしっかり守り、必要な情報のみを厚労省に提出する形がいいのではないのでしょうか？

ブロックチェーンなどの技術を使えば、学問的に必要な情報だけを吐き出して提出することは可能です。

もともと私は、今の莫大なコストを掛けて病院間電子カルテネットワーク（すべての電子カルテが繋がる）を広げていくことには反対です。

浪速区医師会では、2009年より地区医師会で医療情報クラウド化が出来ないかずっと挑戦してきました。

データバックアップは、2箇所保存しセキュリティ対策もそれなりに講じてきました。我々のコンセプトは、なにも初めから電子カルテ全部を共有化する必要などなく、最小限の患者情報に採血情報、処方情報が添付したものをクラウドに上げいつでも利用できるというものです。

その情報を救急用に使えるようにしたのがブルーカードシステム、そして在宅医療などで多職種に使えるようにしたのがAケアカードシステムなのです。

つまり医師会が医療情報クラウドに、上記の最小限の情報を（モバイル端末からでも入力可能）クラウドに上げておけば、仮に紙カルテのままであっても利活用するのに何も困ることはなく、薬剤、検査の重複も防げるのです。

医療DXという言葉に踊らされ、すべての医療情報を集約化（全電子カルテ共有化）することが、ICT化していくための最も良い方法だと、皆が思い込まされているのではないのでしょうか？

単に、厚労省が推奨するからと言って、あるいは大手ベンダーが、どんどんシステム導入するからといって、それが本当にベストなののでしょうか？

このまま行けば、ICT化についていけない開業医が、2040年には半分になっている気がしてなりません。

私は、地方ですでに大規模な電子カルテ共有化が進んでいる地域を数カ所見学に行ってきましたが、どれも双方向性で常に使われているものではなく、入院したときや、急変時の利用に病院側のデータを閲覧するものばかりです。

それなら、災害時にも 最低限それさえあれば活用できる情報のみをクラウドに上げておき、そのデータを

- ①病診連携
- ②救急医療
- ③在宅医療

などに必要なときに患者がかかる病院にのみ閲覧権限を与える仕組みのほうが利活用しやすいのではないのでしょうか？

この先、amazonファーマシーがますます増大し、オンライン診療で全国どこにいても診察が出来て薬剤が自宅に送られることになれば、日本の医療業界は壊滅的な打撃を受けることになるでしょう。

仁泉ひろば

jinsen-park

スモンの集いを開催しました —スモンを知っていますか?—

文責/中嶋 秀人 (学 37 期)

1960年代、日本で多発した神経疾患「スモン(SMON)」をご存知でしょうか。Subacute Myelo-Optico-Neuropathy (亜急性脊髄視神経症)の略称です。当時「奇病」として報道され社会に大きな衝撃を与え、原因不明の難病として恐れられました。その後、整腸剤として広く使用されていたキノホルム剤による薬害であることが判明しました。

スモンの症状は、まず腹部症状が現れ、その後、足の裏から上行性に広がる激しいしびれや痛み、異常知覚が出現します。さらに進行すると、運動障害や自律神経障害を引き起こし、重症例では視力障害も併発します。当初は感染症が疑われ、患者は不当な差別も受けまし

た。転機となったのは、患者の緑色尿や緑毛舌の発見でした。これをきっかけに原因物質の分析が進み、キノホルム剤との因果関係が確認され、1970年に販売中止措置が取られた後にはスモンの発生はなくなりました。

約11,000人がスモンと鑑定され、製薬会社と国の責任を問う訴訟の末、1979年に患者の恒久対策を条件に和解が成立しました。被害拡大の背景には、外用薬として開発されたキノホルムの内服薬への安易な転用、投与量規制の不備、医療関係者間に広がった「安全神話」、さらに国民皆保険制度の開始による処方量の増加などの要因が重なっていました。この薬害の教訓から、薬事法が改正され、医薬品副作用被害救済制度が創設されました。また、スモンの研究体制は、現在の難病研究の礎となりました。現在も全国に約800名の患者さんが存在し、平均年齢は82歳を超えています。高齢化に伴い、後遺症に加えて様々な併発症状により、QOLの低下が課題となっています。

令和6年10月27日、ステーションコンファレンス池袋において「スモンの集い」を開催し、事務局を務めました。厚生労働省の研究班主催のもと、患者さん、ご家族、

医療関係者など約100名が会し、スモン後遺症患者における自律神経の実態調査や日常生活の工夫について、当事者・医療者双方からの報告がありました。また、神経疾患のリハビリテーション、認知症予防、さらには神経難病の最新の病態解析と創薬研究まで、幅広いテーマについて第一線の専門家による講演が行われました。特に印象的だったのは、東京スモン患者の会の花形晴雄氏による「スモン患者の現況と後遺症に対する日常生活の工夫」の講演で、実体験に基づく貴重なお話をいただきました。患者さんの高齢化に伴う新たな課題や、それに対する具体的な工夫について、参加者全員で理解を深める機会となりました。

スモンは日本最大の薬害ですが、最流行期から半世紀以上が経過し、スモンについて知らない医療従事者が増えています。この集いを通じて、薬害の歴史を風化させることなく次世代に伝え、二度と同じ過ちを繰り返さないために私たち医療者が果たすべき役割の重要性を、改めて強く認識しました。

ご投稿のお願い

会員相互および母校とのコミュニケーションや情報交換の場として「仁泉会ニュース」を引き続き利用させていただきたいと思っています。会員の先生方より本誌に対する忌憚のないご意見をいただき、同窓会の活動をさらに充実させていきたいと考えています。

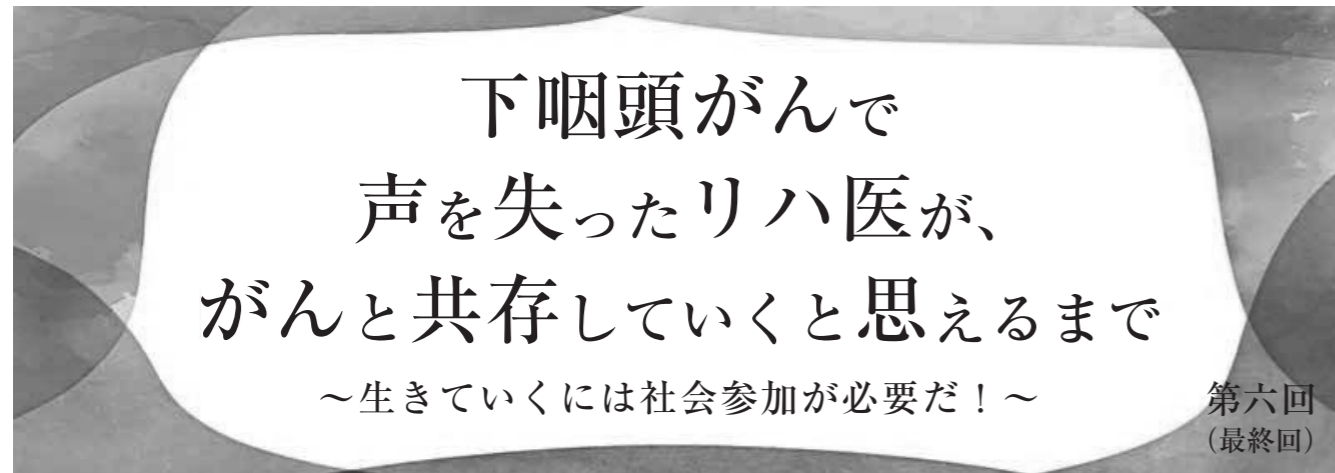
下記の要領にて、多くの会員皆様からの投稿をお願いします。

- 支部会、クラス会、趣味の集会などの案内や報告
 - 「仁泉ひろば」のコーナー
 - 研究論文の要約（以前に他誌に投稿された内容でも結構です）
 - 随想、紀行、写真、絵画、俳句、短歌、川柳などの趣味や特技
 - 紹介したい店、場所、物など
 - 本誌に取り上げて欲しい話題
- 字数には制限は設けません。葉書1枚、便箋1枚でも結構です。

- 広告に関して
- 会員自身が出される広告は現在100字程度までは無料です。内容は、人材募集、開業場所の紹介、医院承継、ブライダル、趣味の発表会の案内などです。詳細については事務局までお問い合わせ下さい。
- (内容により有料の場合があります)

事務局編集係





文責／太田利夫（学31期） 掲載：メディカ LIBRARY from メディカ出版 <https://ml.medica.co.jp/series/rihai>

#008：患者の立場で感じたこと

どういった医療的フォローをしてほしかったのか？

在宅での闘病期間中、外来での看護・リハビリテーションのかかわりは、実のところほとんどありませんでした。精神的ふれあいや、活動・参加への援助も、です。

外来での、医療保険を使ったがんリハビリテーションは認められていません。介護保険でも、65歳未満はがん末期のみ認めているだけです。がんサバイバーは64歳以下が大半を占めているのに、それを救済する制度がないのは問題だと感じます。

がんサバイバー

がんサバイバーとは、がんが治癒した人だけを意味するのではなく、「がんの診断を受けたときから死を迎えるまでの、すべての段階にある人」と定義されています。がんサバイバーシップとは、「診断時から命の終わりまで、がんとともに自分らしく生きること」です。

患者はつねに再発の不安を抱えています。「サバイバーシップ支援」とは、がんになったその後を生きていくうえで、直面する課題を乗り越えていくためのサポートのことです。

看護について

がん拠点病院にかかっている人の調査で、がん相談支援センターを知っている人は約66%で、利用したことのある人は、そのなかでわずか14%しかないとのこと。私も、がん相談支援センターがあると知っていましたが、具体的に何をどう支援してほしいかが自分でもわからず、結局、利用していません。それは、自分が仕事の継続や金銭面で恵まれていたこともあるかと思います。

化学療法室の横にがん相談支援センターがありますが、待っている間にセンターを訪ねる人を見たことはほとんどありません。センターとして大きく構えることよりも、化学療法のときの寄り添いが、もっとあればいいのと思えました。本人が救われるかどうかは別であります。

むしろ家族への支援がありがたいかなと思えました。

妻も、気丈にはしていましたが、更年期障害と重なり精神的に不安定になり、結局心療内科のお世話になっています。そういう家族への看護師・療法士さんの寄り添いが充実していると、助かります。

リハビリテーションについて

一般的なフレイル予防、体力向上のリハビリテーションだけでなく、原疾患による機能障害を助けるリハビリテーションの継続が望ましかったです。当然、情報提供が多くあればと思っています。

友人について

人前で話すように後押ししてくれた友人の存在は、とても大きいです。

さらにいろいろな機会を考えてくれて、私自身が強くなり、前へ出ようとなるように援助してくれています。

おわりに

下咽頭がんで声を失っただけでなく、食道がん、肺がんにも罹患し、最後にすい臓がん…。見つかったときには、肝臓に転移しておりステージ4の末期だったわけです。

しかし、電気式人工喉頭というコミュニケーション手段を得ていたため、むしろ、講演、講義などに積極的に参加するようになりました。まさに、生きるためには社会参加が必要でした。

そして、どれくらい残されているかはわかりませんが、がんと闘うのではなく、共存すると思えるようになりました。そして、この経験をできる限り多くの人に伝えたいと、このWebを配信することにしました。おこがましいですが、読んでいただいたみなさんの人生の参考になればと思っています。

まだまだ倒れません！倒れるわけにはいきません！

太田利夫

西宮協立リハビリテーション病院

1957年生まれ。大阪医科薬科大学大学院卒業、医学博士。2015年58歳、働き盛りで下咽頭がんに。そして、2016年声帯全摘出し、声を失う。そんな時、電気式人工喉頭と出会い、第二の声を得た。電気式人工喉頭という音声によるコミュニケーションツールの重要性と、機能回復だけでなく社会生活に復帰、さらに講演という社会参加にも前向きに取り組むようになった。また、言語聴覚士養成校での講義を電気式人工喉頭で行うことにより、学生のモチベーションアップにつながっている。

西宮協立リハビリテーション病院名誉院長、日本リハビリテーション医学会専門医・指導医、日本整形外科学会専門医、日本リハビリテーション病院・施設協会理事、回復期リハビリテーション病棟協会理事。

太田利夫先生は令和6年6月17日にご逝去されました。ご逝去を悼み、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

本稿の連載は、御遺志により最終回まで掲載させていただきました。

冊子 抜

濱脇弘暉先生(学11期)の追悼記事が高知県医師会報 第680号に掲載されていましてご紹介いたします。
ご逝去を悼み、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(52)

高知県医師会報 第680号

令和7年1月1日発行

追悼文

濱脇弘暉先生を偲んで

梅原産科婦人科 梅原 惇

令和6年11月13日(水)午前10時頃、細木秀美先生からお電話がありました。「梅ちゃんに早う知らせんといかんと思うて…」。残念で、悲しい訃報でした。

高知県医師会の元常任理事、前高知県産婦人科医会会長の濱脇弘暉先生が満87歳でご逝去されたのでした、謹んでここにご報告させていただきます。

先生は、昭和31年4月に神戸大学理学部教養課程を経て大阪医大に入学。同大学院に進まれ、卒後、昭和43年7月済生会兵庫東病院に勤務、昭和44年4月に帰高されました、高知市立市民病院産婦人科科長として勤務中に浜脇産婦人科医院のお父様の急逝で、昭和46年7月から医院を継承、昭和54年に同診療所を新築されています。新築準備のご苦労もあったのでしょうか同年、持病の痔核の手術を受け、限定出版?「痔小説・我が闘争」が当時県医師会広報委員の恒石先生の目に留まり、昭和54年度から14年間県医師会広報委員、平成6年度から14年間県医師会常任理事を務められました。

一方、昭和61年度から旧日母・現高知県産婦人科医会理事を経て、今橋経任会長の後、平成15年度から16年間会長を勤め上げられ、平成31年4月から現会長坂本康紀先生にバトンタッチされています。長年、日々の診療・分娩と医師会、行政関係と3足の草鞋を履いていましたが、平成14年10月に無床診療所、浜脇レディースクリニックに名称変更、平成17年5月には遂に診療所を閉鎖されています。その後は高知検診クリニック、細木病院で婦人科検診をされていました。長年に亘る日本産婦人科医会へのご貢献により名誉会員となられました。

また、医会や県医師会から県行政との各種事業やシステム構築等に多大なる業績を残された事により、平成14年11月高知県功労者知事表彰、18年11月厚生労働大臣表彰、26年11月には秋の旭日双光章の叙勲も受けられています。私は昭和54年4月に帰高し、高知市立市民病院産婦人科科長として勤務しましたが、その時には先生は、すでに退職されていました。ただ、先生のお父様と私の父(内科医)は戦後の市民病院で旧知、岳父(内科医)も先生とゴルフで一緒する機会が多く、お噂は何っていました。市民病院の産婦人科の勉強会や手術に先生は顔を出されていたので、勉強会の後は、酒好き、カラオケ好きの今橋、濱脇、重軒、山本(正孝)先生と私はいつも何となく連れ添っていました。私以外は皆さん大変な酒豪で私だけいつも酔っていません。先生は飲み会後の帰宅時によく新聞配達のおジサンや牛乳配達のおバサンに会う時があったとお聞きしました。(お産のない日だと思えますが…)

その後、私も開業して同産婦人科医会の理事となり、先生が会長時代に副会長として14年間ご一緒に務めさせていただきました。同医会の歴代の会長はそれぞれに個性をお持ちで魅力的な先生方でしたが、先生も我々会員にとっては情熱と実行力のある頼れる兄貴のような存在でした。日本の産婦人科医療の現状、将来を憂えていましたが、特に愛する高知県の周産期医療に対して誰にも負けない熱い思いがあり、随分ご尽力されました。我々の年間誌「高知県産婦人科医報」の巻頭言に全国一高齢な高知県産婦人科医会会長が、最後の任期を務められる心境を、このように記されています。「鶏皮鶴髪」な老会長ながら、全国最小数の産科医師の地にあつて「鶏口牛後」の覚悟で人生最終章を命輝かせて、県市民・会員のお役に立てばと考えています。会員のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。(全文から一部抜粋)と。

コロナ社会になり、産婦人科の講演会も現地会場参加からWeb視聴、ハイブリッド参加になっていますが、ここ、数年先生にお目にかかることがありませんでした。一度お電話をしなければ思っていた矢先の事でしたので、お元気な先生にお会いできなくて誠に残念です。お通夜で気丈にされている奥様と立派に成長された子供さん達に久々にお会いできましたが、先生は素晴らしい奥様に支えられ、3人のお子さんに恵まれて本当に幸せだったと思います。久々に先生のお顔を拝見しましたが、「来てくれたかえ」と話しかけられたような気がしました。

濱脇先生、ご交誼いただいてから約45年間、多々大変お世話になりました。また、沢山の楽しい思い出をありがとうございました。

先生は、現世で働き過ぎです。しばらくはどうぞごゆっくりとお休み下さい。心からご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

冊子 抜

日本医事新報 5254号に茂松茂人先生(学27期)の記事が掲載されましたのでご紹介させていただきます。

地域医療維持には安定経営基盤が必要

公益社団法人日本医師会副会長 茂松茂人



皆様、明けましておめでとうございます。新年を迎え一言ご挨拶を申し上げます。

2025年の干支は「巳」ですが、日本医師会の紋章も蛇であり、医療の象徴として、WHOや世界医師会でも蛇が巻きついた名医アスクレピオスの杖が広く用いられています。「巳」は蛇の脱皮し強く成長するイメージから「再生と変化」の意味が込められており、皆様にとって本年が変化の年として、日頃から努力して取り組まれていることが、どうか実を結びますよう祈念申し上げます。

さて昨今、人件費や物価の高騰により病院の経営は一段と厳しさを増しております。新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、病院の経営状況は黒字に転じているとお話一部ではございましたが、直近の病院経営は非常に厳しい状況にございます。

全国の病院の占める割合ですが、民間病院が80%、公的病院が20%となっており、病床で見ますと、民間病院が70%、公的病院が30%で、民間病院の60%が救急搬送を受け入れていると言われております。

また、医業利益における赤字病院の割合は2022年度が76.0%に対して、2023年度は74.7%と若干減少しておりますが、経常利益における赤字病院の割合は2022年度が22.7%に対して、2023年度は51.0%と大幅に増加しており、非常に厳しい経営状況にあることが明らかとなっております。さらに、日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会の3病院団体が昨年9月に公表した「2024年度病院経営定期調査—中間報告(緊急速報)」によると、2022年度と2023年度の比較で、医業利益の赤字幅率はやや縮小しているものの、依然として赤字の状況であり、経常利益率については6ポイント以上も悪化しております。また、直近の2024年6月を昨年同月と比較す

ると、医業利益率、経常利益率ともに悪化し、大きく赤字となっています。このままでは日本の医療は果たして本当に大丈夫なのか大変危惧しているところでございます。

第8次医療計画に即した医療提供体制を構築するのは重要なことですが、そもそも病院、診療所の安定した経営基盤があつてこそ、初めて地域医療構想や地域包括ケアシステムについて議論ができるのではないのでしょうか。令和6年度診療報酬改定における報酬本体のプラス0.88%と一定の評価はされましたが、それだけを原資として、昨今の物価高騰や賃上げに対応することは、もはや非常に厳しい状況にあります。

また、病院を取り巻く現況について、7対1看護における重症度、医療・看護必要度のB項目(高齢者の寝返り介助等)の廃止により、内科系病棟を中心に影響が生じております。一方で、地域包括医療病棟への移行も施設基準が非常に厳しいがために進んでいない状況もあり、今後増加する高齢者救急に自信を持って対応できると言えるのでしょうか。

こうした状況をふまえ、日本医師会では昨年も松本会長を筆頭に財務省や厚生労働省に対して、既に様々な支援について要望を行ってまいりました。病院や診療所を取り巻く現状について積極的にこれからは発信し続け、各関係省庁にもさらに認知してもらう必要があると考えており、今年も粘り強く訴え働きかけてまいります。皆様方におかれましても、引き続きご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様方にとって幸多き1年となりますよう心からお祈りいたしまして私からのご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

会員著書

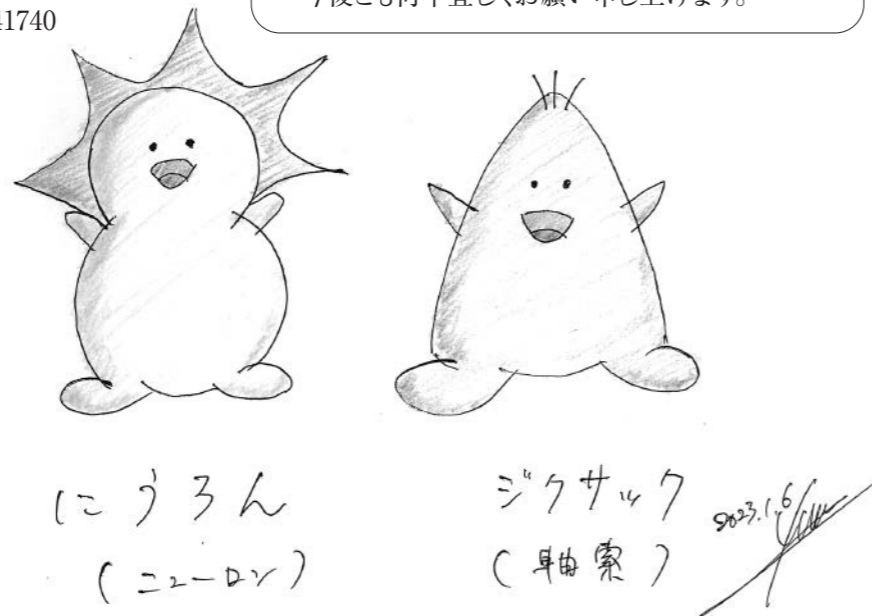
ぎゅぎゅつと濃縮 脳卒中の病態・症状・治療とケア

代表提供者 三木義仁 (学50期)
(多根総合病院 神経・脳卒中センター脳神経外科統括部長)

出版社 メディカ出版
公式オンラインストア
(“脳卒中”で検索)
<https://store.medica.co.jp>

動画本数 20本
総時間 3時間16分6秒
刊行日 2025年02月10日

- ◆ぎゅぎゅつと濃縮
脳卒中の病態・症状・治療とケア (総合案内)
https://database.medica.co.jp/movie-library/program.php?rec&program_id=2133
- ◆ぎゅぎゅつと濃縮
脳卒中の病態・症状・治療とケア (PDFテキスト版)
受講料 6,000円
<https://store.medica.co.jp/item/190241730>
- ◆ぎゅぎゅつと濃縮
脳卒中の病態・症状・治療とケア (冊子テキスト版)
受講料 8,000円
<https://store.medica.co.jp/item/190241740>



学50期 (平成13年卒) の三木義仁と申します。
現在多根総合病院 神経・脳卒中センター 脳神経外科で統括部長として勤務しております。

書籍ではございませんが医学系雑誌社のメディカ出版様よりご依頼を受け、約2年前から執筆を進めておりました脳卒中に関するのナース向け講義動画セミナーが完成し、昨日ついに出版リリースされました (刊行日2025年02月10日)。

神経病棟やSCUに新規配属される新人ナースをターゲットにした全20本の講義動画で、有料販売されます。

今の若手ナースは机に座って書籍を開くより、通勤時間を利用してスマホで動画をみて勉強するなどの、今風に表現すると“タイパ (タイムパフォーマンス) の良い”スタイルが流行りなのだそうで、時代を感じさせられます。

執筆依頼を頂いてからまず行ったのが、ニューロンと軸索をモジったイメージキャラクターの“にゅうろん” “じくさく” (図) 作りで、これを考えている間に2ヶ月が過ぎるなど、作成に時間を要し難航しましたが、誰かの役に立てばと思いながら頑張って執筆致しました。

有料なので閲覧はややハードルが高いですが、内容は比較的基礎的で脳卒中全般を網羅しており、新人ナースには有用かと思われますのでアナウンスさせて頂きました。

脳卒中看護のクオリティー向上のため、ご勤務施設に脳神経系ナースがおられれば、ぜひご紹介頂ければと思います。

今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

新聞切抜

高知新聞に近森正幸先生 (学21期) 叙勲の記事が掲載されましたのでご紹介させていただきます。

瑞宝小綬章
元近森病院長
ちかもり まさゆき
近森 正幸さん (77)

目いっぱい走ってきた

「理事長職を退いてからストレスがないなった」と話す近森正幸さん (高知市大川筋1丁目の近森病院)

37歳で高知市の近森病院の院長、医療法人の理事長に就任し、時代を先取りしたアイデアでグループを発展させた。現在は、県内最多の救急患者を受け入れる「救命救急センター」として高度急性期医療の中心を担うまでになった。

「高齢化が進む高知は課題満載。何をすべきか現場の患者が教えてくれた。急性期治療を終えた患者にリハビリを行って地域に帰したり、管理栄養士を病棟に常駐させて患者をサポートしたりする取り組みは国に評価され、いずれも診療報酬の新設につながった。地方から国内医療の充実を図ってきた。

外来患者をかかりつけ医に逆紹介する県内初の「地域医療支援病院」となり、大病院が患者を抱え込まず、地域全体で診る医療連携も率先して進めてきた。

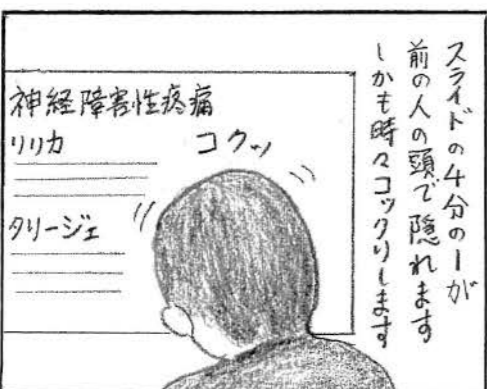
3月末で理事長を退任し相談役に。時代と人と多少の才能に恵まれ、目いっぱい走ってきた。うれしいのは真実に信頼される病院になったこと」と笑顔に笑った。(右丸静香)



まんが 第72回

六本太ヒルズ (学31期)

リアル1



リアル2



本部だより

会員訃報

次の会員が亡くられました。慎んでご冥福をお祈り致します。

事務局編集係

高医20期 中津川 直人先生

令和6年11月23日老衰の為に逝去 (96歳)。

昭和26年卒。

卒業後、母校解剖学教室に入局され、その後京都大学医学部解剖学教室に入局されました。(京都大学学位授与)

その後京都市伏見区にて中津川内科診療所をご開業になり、地域医療に貢献されました。

ご遺族 妻 和子様

学部3期 村上壽徳先生

令和6年10月28日老衰の為に逝去 (96歳)。

昭和29年卒。

卒業後、旧第一外科学教室で研鑽を積み、摂津市にて村上外科医院をご開業されました。78歳で閉院されるまで長きにわたり地域医療にご尽力されました。

ご遺族 長男 剛様

学部11期 濱脇弘暉先生

令和6年11月13日多臓器不全の為に逝去 (87歳)。

昭和37年卒。

高知検診クリニックにてご勤務になり地域医療に貢献されました。

ご遺族 妻 淑子様

学部16期 清金公裕先生

令和6年11月15日老衰の為に逝去 (84歳)。

昭和42年卒。

卒業後、昭和47年に母校皮膚科学教室に入局されました。平成5年母校皮膚科学教室の教授にご就任されました。平成21年に退任後は母校皮膚科学教室の名誉教授をお務めになっておられました。

ご遺族 妻 玲子様

学部17期 筧 紘一先生

令和6年12月13日低体温症の為に逝去 (84歳)。

昭和43年卒。

滋賀県長浜市にて筧医院をご開業になり、地域医療に貢献されました。

ご遺族 子 力様

学部19期 久原 征先生

令和6年11月29日前立腺癌の為に逝去 (80歳)。

昭和45年卒。

卒業後、熊本大学脳神経外科、第一外科研修後、同大学第一外科に入局されました。その後出水市立病院での勤務を経て、熊本大学医学部第一外科に戻られ、自衛隊熊本地区病院、西郷病院、熊本労災病院にご勤務されました。昭和56年熊本県八代市にて久原外科胃腸科医院をご開業になり、令和4年の閉院まで長きにわたり地域医療にご尽力されました。

ご遺族 妻 郁子様

特別期 楳林 勇先生

令和6年10月21日骨髄異形成症候群の為に逝去 (85歳)。

徳島大学医学部をご卒業後、神戸大学放射線医学教室にご入局。川崎医科大学助教授、県立成人病センターでの勤務を経て、大阪医科薬科大学放射線医学教室の教授をお務めになりました。

在職中は、心より大阪医科薬科大学の学風を愛し素晴らしい先生方に囲まれておりました事に喜んでおられました。

ご遺族 妻 裕子様

編集部より

会費納入のお願い

年会費

令和6年度 10,000円

令和5年度 10,000円

令和4年度 10,000円

納入のご協力をよろしくお願い致します。

事務局 会計係

原稿募集のお知らせ

仁泉会ニュースの原稿を募集しております。日々の診療で感じられた事、研究報告、趣味のお話やクラス会や支部会のご報告なんでも結構です。

ご投稿お待ちしております。

●56巻3号(令和7年5月1日発行)

締切 令和7年3月末日

●56巻4号(令和7年7月1日発行)

締切 令和7年5月末日

●送付先:仁泉会事務局 〒569-8686 高槻市大学町2-7

E-mail:jimu@jinsenkai.net FAX:072-682-6636

編集後記

今季はここ数年と違って寒い冬になり、降雪量も多く影響が出ている地域もあります。また昨年末にはインフルエンザの流行が見られました。まだCOVID-19もくすぶり続けている中、同窓諸氏にはいかがお過ごしでしょうか。

仁泉会では事業の一環として、会員先生方が主催される学会への援助を実施しています。限られた予算の中ですのでささやかな額ではありますが、年間で五から十程度の支援を行っております。今号では支援させてい

ただいた学会報告が3編掲載されています。いずれも成功裏に終えられたようで何よりのことと思います。

そのほかにも、大阪府支部連合会学術講演会報告、女医会開催案内など各種会合の記事もあります。各方面で活躍中の同窓の新聞記事切り抜きもあり、仁泉会会員の活発な活動をお伝えできることが仁泉会ニュース編集局の大きな喜びです。今後もぜひ情報をお寄せください。よろしくお願い申し上げます。

(治)

求人 内科系常勤医募集☆駅近クリニック、週4日☆女性、シニア活躍☆マイカー通勤可、子連れ出勤可

勤務形態	常勤	休日	土曜日午後、水・日曜日、祝日
募集科目	内科 または 小児科	休暇	お盆、年末年始各1週間、その他学会参加に伴う臨時休診あり、有休は法定通り
募集人数	1名	特徴	残業なし、週4日勤務可、当直なし、年齢不問、駅チカ・通勤便利、マイカー通勤可、電子カルテ、ベビーシッター費用補助、ブランク可、地域医療に携わる、女性医師活躍、シニア医師活躍、新型コロナウイルス感染症関連
業務内容	外来、予防接種、その他(各種健診、生活指導、軽外傷処置) ※標榜診療科は、小児科、内科、皮膚科 患者内訳は、小児科2割、内科7割、皮膚科1割。	加入保険等	雇用保険、労災保険、健康保険、厚生年金、医賠責
勤務日数	週4日	定年制	60歳(ただし、70歳まで再雇用制度あり)
勤務曜日	月、火、木、金	福利厚生	白衣、上履き支給、学会参加費支給、その他各種手当あり
勤務時間	8:30~19:30 ※時間相談可	給与	月給1,000,000円~1,200,000円 (経験・スキル・勤務内容により決定)
休憩	180分(行動自由、院内に休憩室あり、一時帰宅も可)	交通費	月50,000円まで
時間外労働	残業なし	昇給・賞与等	応相談
当直	なし	試用期間	3ヶ月 ※試用期間の給与は基本給与と同じ
オンコール	なし	備考	退職金あり(ただし、勤続3年以上) 通勤時間30分程度で、伊丹市近隣の市町に在住の方が望ましい。 希望があれば、院長職も可能。
勤務開始日	2025年4月~	受動喫煙防止措置の状況	禁煙
雇用期間	期限の定めなし		
経験年数	5年以上		
必要資格・スキル	小児科専門医資格があれば尚よし		
忙しさ	診療体制:1診体制 外来患者数:1日30~40名程度 病棟管理:なし		
その他勤務条件	診療時間は午前診9~12時、午後診16~19時(午後は受付18時半まで)。土曜は午後休診。		

勤務先:医療法人社団 宮崎クリニック
〒664-0882 兵庫県伊丹市鈴原町4-4-1
TEL 072-777-0045

アクセス:阪急伊丹線新伊丹駅下車 徒歩8分
阪急伊丹駅、阪急塚口駅から
伊丹市バス37系統で「鈴原町4丁目」
下車徒歩1分

担当者:操 真紀 (連絡先:090-9055-6336)



☆内科系パート医師も募集しています。

大阪医科大学 創立100周年 記念事業

数十年先の未来医療へ

大阪医科薬科大学病院 新本館建築プロジェクト

Super Smart Hospital

スマート医療を推進する大学病院

「バイオフィリア」という概念を取り入れ、自然と触れ合うことで健康や幸せを得られる空間を実現。

AIやロボットなど先端技術を活用し、効率的で「安全・安心な高度医療」を提供。

最先端の医療技術や高度な多職種連携の学びにより次世代を担う「優れた医療人を育成」。



2027年全容完成予定

2025年B棟完成

2022年A棟完成



Since 1927

1960年病院1号館完成



募集要項

募金目的▶大学病院新本館建築に係る資金、学生支援体制の充実
募金目標▶10億円
募集期間▶~2027年3月
募金単位▶個人：1口1万円、法人：1口10万円
顕彰▶個人、法人ともに5口以上ご寄付いただいた方は、銘板にご芳名をしるし、末永く顕彰いたします

特典▶個人：10口以上、法人：5口以上ご寄付をいただきました方は、健康科学クリニックの人間ドック（基本コース）1回分の無料受診券を進呈します。
申込方法▶学校法人大阪医科薬科大学寄付WEBサイトよりお申し込みいただくか、募金推進本部迄ご連絡ください。



大阪医科薬科大学基金

大阪医科薬科大学基金は、皆様からいただいた募金を積み立てて資金運用することによりさらに増やしていくもので、基金の拡充は、長期間にわたる「教育・研究活動」「良質な医療の提供」の強化に繋がります。

募集要項

募金単位▶個人：1口1万円 法人：1口10万円
申込方法▶学校法人大阪医科薬科大学寄付WEBサイトよりお申し込みいただくか、募金推進本部迄ご連絡ください。
【お問い合わせ先】募金推進本部 072-684-7243

【税制上の優遇措置】学校法人大阪医科薬科大学は特定公益増進法人です。大阪医科薬科大学に対するご寄付は所得税・法人税・相続税の税制上の優遇措置を受けることができます。また一部の自治体では、個人住民税の税額控除の対象となります。

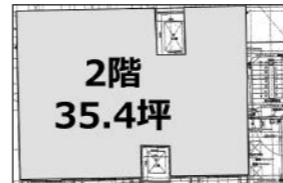
学校法人大阪医科薬科大学 募金推進本部 〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7
OMPU Tel: 072-684-7243 Mail: kikin@ompu.ac.jp Web: https://www.ompu.ac.jp/donation/index.html

至誠仁術を備える人材の育成をめざして
ご支援のお願い

テナント募集 消化器内科・内科の承継物件

場所：大阪市浪速区難波中 2-3-3
募集科目：皮膚科・婦人科を除く全科目
※推奨科目：消化器内科・内科

募集区画：2階 35.4坪



- 角地に面しており、視認性良好です
- 乗降客数の多いなんば駅からのアクセスが抜群です
- 皮膚科・婦人科盛業中の医療モールです



- 5F：婦人科クリニック
 - 4F：皮膚科クリニック
 - 3F：美容エステ
 - 2F：募集区画
 - 1F：日本調剤なんば薬局
- ★各階盛業中
★南海電鉄「なんば」駅 徒歩2分

- エレベーター設置
- 内視鏡、腹部・心臓エコー、CT 設備等は譲渡対象です。（金額等応相談）
- 昼夜通して人通りの多いエリアです。周辺はショッピングモールが多く立地しており、視認性抜群です。
- ・賃貸借契約にあたっては、調整・打ち合わせが必要になります。
- ・建物外観や仕様・契約面積等は変更になる可能性があります。

お問い合わせ先

仁泉会事務局：TEL 072-682-6166
FAX 072-682-6636
e-mail jimuj@jinsenkai.net



ハードルをジャンプ!!

地元で 50年

薬袋・診察券・カルテなどの
医療印刷

タツミ印刷株式会社

お気軽にご相談下さい。

池田・高槻
tel: 072-761-8434

大阪医科薬科大学女性医師の会 第4回総会のご案内

拝啓

新春の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、「女性医師の会」第4回総会を下記の通り開催いたします。本会は、「思いやりと情熱を持った女性医師を目指して～学年、世代、専門性を越えた 生涯変わらない同窓生のつながり～」をテーマに、年に1回美味しいお食事をいただきながら語り合い、学び、刺激を受ける貴重な場となっています。この数時間だけは仕事などから少し離れ、美味しい食事と楽しいひとときをご一緒できればと思っております。ご参加いただくことで、改めて「この会合って、こんなに楽しいものなんだ!」と感じていただけるはずですよ。

なお、昨年までの2回はオンラインと現地のハイブリッド開催でしたが、「現地で感じる同窓の波動こそが、この会の醍醐味」との思いから、今年より現地開催のみとさせていただきます。

皆様とお会いできることを楽しみにしておりますので、ぜひご参加ください。

記

日時：令和7年6月14日（土）午後4時 受付開始
午後4時30分～5時45分 総会および医療講演会、午後6時～8時 懇親会
医療講演会 「(臨床) 法医学の仕事と社会活動 ～性被害への対応も含めて～」
講師：山口大学大学院医学系研究科 法医学講座 教授 高瀬 泉先生（学47期）

場所：ホテルグランヴィア大阪 20階
総会及び講演会：孔雀の間、写真撮影：浪速の間、懇親会：鳳凰の間

会費：10,000円（※）、2,000円（講演会のみ）
※令和6、7年に大阪医科薬科大学ご卒業の先生は5,000円

出欠登録：2次元コードか、URL <https://forms.gle/iW7SSBTWdjMBqk3s8> からご登録ください。

*出欠登録を事務局で代行させていただきます。

メールかFAXで、①～④をお送りください。

メール宛先：omc-women@jinsenkai.net（件名：出欠登録）

FAX：072-682-6636

①氏名(旧姓)、②卒業年度もしくは学期、③メールアドレス、④懇親会参加の有無



出欠登録

参加登録締め切り：5月27日

なお、アレルギー食とお子様向けのお食事は5月24日までにご登録ください。

【ホームページのご案内とメール登録】

女性医師の会では、近況報告やイベント情報などを共有できるホームページを運営しています。

会合のご案内等を送らせていただきますのでメールアドレスをご登録下さい。

宛先：omc-women@jinsenkai.net（仁泉会事務局内、女性医師の会）

件名：メールアドレス登録

登録内容：①氏名(旧姓)、②卒業年度もしくは学期、③メールアドレス



ホームページ

大阪医薬大 女性医師の会

検索



プレミスタタワー千里丘

外観完成予想CG

BRIGHT STELLA

その輝きは、千里を照らす。



BRIGHT STELLA

住×商 複合再開発※1

商業業務施設 [ブライツステラ摂津千里丘]
住宅施設 [プレミスタタワー千里丘]
誕生

JR「大阪」駅直通16分	JR京東線「千里丘」駅徒歩2分
ペデストリアンデッキ (自由通路) ・駅直結	エリア最高層※2 タワーレジデンス



※1 千里丘駅西地区再開発事業 2027年工事完了予定 現在の状況工事中※2 摂津市に建設された新築分譲マンションで最高層(地上36階、2024年4月時点 MRC調べ)
※掲載の外観完成予想CGは、設計図書に基づき描き起こしたもので、実際とは多少異なる場合があります。また、ペデストリアンデッキ(自由通路)は、摂津市の2024年9月時点の公表データに基づき描いております。
植栽等は、竣工時には完成予想CG程度には成長しておらず、形状、位置等は実際とは多少異なる場合があります。家具・家電・備品・車等は販売価格に含まれません。
※掲載の電車所要時間は朝の通勤ラッシュ時のもので時間帯により異なります。通勤時は7:30～9:00に目的駅に到着する最本数の時間帯の所要時間を表記しています。2024年4月時点のダイヤをもとに「ジョルダン」にて調査したものです。
※地図は概略図ですので省略されている道路・施設等があります。※掲載の情報は2025年1月時点のもので今後、変更になる場合があります。

提携割引 販売価格(税込)より **1%割引** 提携割引をご利用いただくには「紹介カード」が必要です。初回来場時に「紹介カード」をご提示いただくことが条件となりますのでご注意ください。

[売主:販売代理]	[売主]	[売主:販売代理]	[売主]
大和ハウス工業	JR西日本不動産開発	ソーシャルデベロッパーへ Hoosiers	関電不動産開発

「プレミスタタワー千里丘」マンションギャラリーはこちら

0120-054-335 営業時間/10:00～18:00 (火・水・第2・第3木曜定休) ※祝日除く

千里丘 タワー 検索

